

「キリストの心」

I. 「キリストの心」とは何か？

① 「キリストの心」について、聖書の他の箇所ではどの様に表現しているか？

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」（ガラテヤ 2:20）

「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」（v.5）（ピリピ 2:1~8）

→別訳「あなたがたも、この様な心を持ちなさい。これはキリスト・イエスの内にある心です。」

→2017年版「キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。」

② 「心」とは何か？

「心」とは→その人の考え、動機、価値観。その人の計画を指す。

「ヌース」というギリシャ語が使われている。

→（つまりは…）「キリストの心」を持つとは、「私たちの内に、（あらゆる事柄に関して）キリストの考え、キリストの動機、キリストの価値観、キリストの計画を持つ事」を言う。

II. 誰が「キリストの心」を持つのか？

① 私たちクリスチャン

→何故なら私たちの内には主の御霊があるから

2:14~16 「御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」（v.14c）

私たちの心が「キリストの心」と一つになって行く事によって、私たちは神の御心を知って行く事になる。何故なら、私たち救われた者は、神様の事をひたすらに考えて行くから。

「肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。」（ローマ 8:5）

② 神が我々に「キリストの心」を与えて下さる

→「キリストの心」は、救われたクリスチャンに神が一方向的に与えて下さる

「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、またあなたがたが心の霊において新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」（エペソ 4:22~24）

ここでv.23で使われている「心の霊」の「心」とは、1コリント2:16で使われている「心」と同じ言葉（ギリシャ語で「ヌース」）が使われている。

「心の霊において新しくされ」は「受け身」の表現

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」（ローマ 12:1.2）

III. 私たちはどの様に「キリストの心」と一つになって行くのか？

①御言葉によって

私たちが「キリストの心」を与えられるだけでなく、その「キリストの心」「主の御心」をさらに深く知り、「キリストの心」と「私たちの心」が一つとなって行く為には、当然、私たちは「何が神の御心なのか？」を知らなければなりません。

私たちは、御言葉を通して神の御心を知って行くのです。

→2:18から、パウロは「十字架のことば」と「この世の知恵のことば」と対比しながら語っている。

「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」（1コリント 1:18）

「ことば」（ロゴス）とは、その人の考えや、その人の人となりを表すものです。

「十字架のことば」とは、「神の啓示」を指しています。御言葉つまりは聖書のことです。

創造主である神に信頼を置くからこそ、私たちは神の言葉に聞き従う。

「主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、いつまでも実をみのらせる。」

（エレミヤ 17:7~8）

「幸いなことよ。悪者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」

（詩篇 1:1~3）

「主はこう仰られる。『人間に信頼し、肉を自分の腕とし、心が主から離れる者はのろわれよ。』（エレミヤ 17:5）

→その「十字架のことば」は「世界の始まる前から、あらかじめ定められたもの」

「私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。」（1コリント 2:7）

「私たちの栄光」とは、私たちが栄光あるキリストと一つにされる事によって受ける栄光です。栄光あるキリストの栄光を、キリストと一つにされるが故に受けるのです。

②御霊なる主によって

「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。」

（1コリント 2:10~11）

「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません、それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」（1コリント 2:14）

IV. 「キリストの心」は、どのような影響を私たちに与えるのか？

①キリストに似た者へと変え続ける

どの様にキリストの御心をなし、キリストに似た者へと変えられるのでしょうか？

→それは、私たちの「こころ」が変えられなければなりません。

私たちの行動の全ては、私たちの心から来るものです。

「正しい選択、正しい行動は、正しい心からしか生まれません」のです。

ましてや、心の動機まで探られる神の前に歩むには尚更のことです。

私たちに「キリストの心」を与え、私たちの心を変えるのは、やはり、御言葉と御霊

「しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。かえって、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。

しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。

これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

(Ⅱコリント 3:14~18)

「『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださるのです。」

(Ⅱコリント 4:6)

②宣教へと駆り立てる

1.キリストが来られた目的は、救いである

「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」 (ルカ 19:10)

2. 「キリストの心」を持つパウロも宣教へと駆り立てられた

「しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。」

(Ⅰコリント 1:23)

「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。」 (Ⅰコリント 2:4)

「私は、クリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けたことがないことを感謝しています。」 (v.14)

(Ⅰコリント 1:11~15)

「会堂管理者クリスポは、一家をあげて主を信じた。

また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。」

(使徒の働き 18:8)

「そこで、みなのは、会堂管理者ソステネを捕え、法廷の前で打ちたたいた。

ガリオは、そのようなことは少しも気にしなかった。」

(使徒の働き 18:17)

「神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、
兄弟ソステネから、」 (1コリント 1:1)